

京都亀岡イノベーションヒルズ構想について

【担当省庁】内閣官房、内閣府

Society5.0の実現に不可欠なメカトロニクス分野（機械、電気、電子、情報工学の融合）の研究開発・人材育成を核とした、京都府南丹地域初の産学公連携拠点が、本府とも連携の上、亀岡市及び京都先端科学大学等により「京都亀岡イノベーションヒルズ構想」（仮称）として計画されており、「地方大学・地域産業創生交付金」で採択いただきたい。

【現状・課題等】

■加速化する高齢化と製造関連事業所の減少

- ・ 亀岡市の高齢化スピードでは、2030年に市民の3人に1人以上が65歳以上（全国・京都府以上）
- ・ 公共交通アクセシビリティの大きな低下が想定される地域にとって、超高齢化による移動難民発生は、ソーシャルキャピタルの存亡に係る解決すべき重要課題
- ・ 製造業の事業者数減少、ソフト、ハード、ネットワークに精通したフルスケール人材の不足による製品企画・開発力の低下
→ ①安心安全なモビリティサービスの提供による社会課題解決と、②解決に向けて行う様々な取組を通じたメカトロニクス関連技術の先端企業・ベンチャーの創出・育成・集積による地域産業発展、との両立を図る「京都亀岡モデル」の構築と国内外への普及を目指す。

「京都亀岡イノベーションヒルズ構想」（仮称）

- ・ 推進主体：京都亀岡イノベーションヒルズ協議会
（参画予定機関）亀岡市、京都先端科学大学、日本電産、京都大学、地域関連企業、京都府 他
- ・ 産業分野：製造業・サービス業（メカトロニクス・AI・IoTシステム開発等）
- ・ インキュベーション施設、疑似市街テストコース、5G通信環境整備、革新的アクチュエータ開発関連施設等を整備予定

※インキュベーションオフィス、MaaS実証にも備えた府南丹地域初の産学連携拠点となり、京都府の南部から北部まで、けいはんなオープンイノベーションセンター（学研）→京都経済センター・京都市内→KUAS（南丹）→北部産業創造センター（中丹）→丹後・知恵のものづくりパーク（丹後）と、つながることで拠点連携効果・産業振興施策の面的展開にも期待大

■亀岡アクティブライフに向けた近未来技術実装事業（亀岡市）

内閣府の近未来技術社会実装事業に選定（平成30年8月）

<分野>移動革命の実現、快適なインフラ・まちづくり、健康寿命の延伸

京 都 府 の担当課	政策企画部 企画参事(075-414-4513) 商工労働観光部 ものづくり振興課(075-414-4849)
---------------	--

【国の事業等】

■概算要求 [内閣府]

- ▶ 地方大学・地域産業創生交付金事業 130 億円（令和元年度予算 101.3 億円）
首長のリーダーシップの下、産官学連携により、地域の中核的産業の振興や専門人材の育成などを行う優れた取組を支援

【京都府の取組】

■産学公連携に係る産業支援施策例

- ▶ 「企業の森・産学の森」事業費
新たな産業文化を創生する企業グループの形成や産学連携プロジェクトの組成から、製品等の試作・研究開発、実用化に向けた市場開拓、生産設備投資等を一貫して支援する事業展開・開発経費補助制度
- ▶ 次世代地域産業育成事業
i P S、A I 等、今後の経済成長に不可欠な最先端技術分野において、理化学研究所や中小企業、ベンチャー等が参画する産学公連携プロジェクトを育成
- ▶ けいはんなロボット技術センター（AIによる自律ロボット開発支援拠点）や北部産業創造センター（ネットワーク対応のCAEシステム導入）等の開発支援拠点
- ▶ 国家戦略特区、けいはんなリサーチコンプレックス、COI STREAM等の国関連施策活用
※その他、AI・IoT活用研究会等の人材育成、京都府京大オフィスの運営
京都ビッグデータ活用プラットフォーム 等

<主たる研究機関>

■京都先端科学大学（京都市・亀岡市）

平成 31 年 4 月、工学部の新設を見据えて、京都学園大学から「京都先端科学大学」に校名を変更。校名にある「先端」には、「まだ誰もやったことのない新しい価値を創造したい」という思い、そして「科学」とは、あらゆる学問を対象に、知的・理論的なアプローチによって問題を解決していくという意味が込められている。

※京都先端科学大学等との連携による次世代モビリティなどの研究開発促進は、「京都府総合計画」分野別基本施策にも明記